

アジア・太平洋一のロボは

常滑で25日から国際競技大会

アジア・太平洋地域の学生らによる自律型ロボットの競技大会「ロボカップアジアパシフィック2021あいち」が二十五、二十八日、常滑市の県国際展示場で開かれる。競技のほか、子ども向けの体験教室やさまざまなロボットを紹介する展示もあり、最新のロボットや人工知能（AI）を体験できる。入場無料で事前登録が必要。

（戸川祐馬）

子ども向けに体験教室も

競技は大学生や高専生、一般が対象の「メジャーリーグ」と中学生の「ジュニアリーグ」などに分かれて開催。会場の競技にはAIを搭載したロボットによるサッカーや、災害現場を想定した救助ロボットの「レスキュー」など十五種目があり、国内外から遠隔参加を含む

（丸C）内の総合インフォメーションで参加を受け付ける。企画展示「ロボットエキスポ」は、人間の暮らしを支えるロボットやものづくりで活躍するロボット、未来の乗り物、ロボットの歴史などを紹介。ステージではロボットやAIに関する講演、フォーラムが予定されている。大会は県などで行う開催委員会と国際組織のロボカップアジアパシフィック委員会の主催で、中日新聞社共催。新型コロナウイルス感染拡大の影響で一年延期されたが、感染防止策を徹底した上で観客を入れて開催する。入場は、体験教室に予約した人も含めて公式ホームページから事前登録する。

県立大（長久手市）の学生や大学院生の有志でつくるチーム「RoboDragons（ロボドラゴンズ）」が、ロボカップアジアパシフィック2021あいちに初めて挑む。県の技術指導などで見つかった課題を一つずつ解決し、優勝を目指している。

自律型ロボットがサッカーをする「ロボカップサッカー小型リーグ」に出場。直径十八センチ、高さ十五センチの円柱形のロボット十一台がゴルフボールをパスしたりドリブルしたりして、相手ゴールを攻める。試合時間は前後半で各五分。六チームが争う。

試合では、天井に設置されたカメラから各ロボットの位置情報を受信。各チームのコンピュータがロボットの配置と事前にプログラミングされた内容に基づき、攻めるのか守るのか、攻める場合はドリブルかパスか、いつシュートするのかなど、それぞれのロボットに指令を出す。

県立大チーム「優勝目指す」

サッカーリーグに出場 県が技術指導



ロボットの動作を確認する学生たち＝長久手市茨ヶ畑週間で

新型コロナウイルス感染拡大の影響で昨年は実戦の機会がなかった。オンライン開催となった今年六月の世界大会でパスやシュートの成功率が課題と分かり、改善を模索。学生たちは情報科学が専門で、機械部分ほどちらかという苦手だが、県の強化対象に指定されて専門家の技術指導を受ける機会に恵まれた。車輪周りの設計上の問題点を指摘してもらえた。二十三日に現地入りし、二十五日の競技開始に向けて準備を進める。リーグで同大学院情報科学研究科の安藤祐太さん（三）は「プレッシャーや不安もあるが、地元開催の強みを生かし、力を最大限発揮して優勝したい」と意気込んだ。